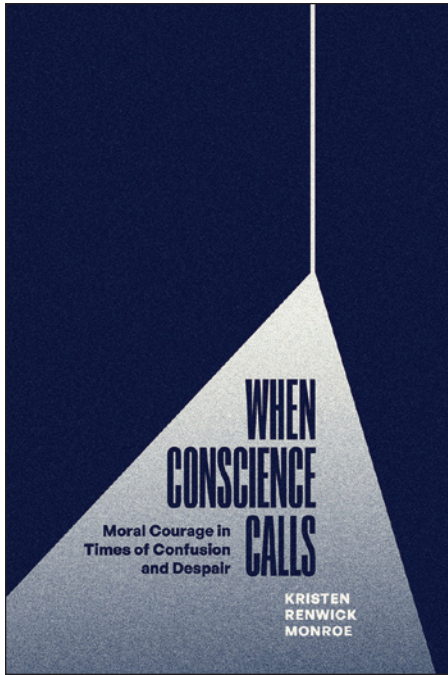


クリステン・レンウイック・モンロー

# 良心が呼びかける時

## 混乱と絶望の時代における道徳的な勇気

2023年10月 | 256 p. | 6 x 9 | Paper \$30.00



クリステン・レンウイック・モンローはカリフォルニア大学アーバイン校の学長で、政治学の特別教授であり、倫理と道徳を科学的に研究するUCI学際センターの創設者、センター長でもあります。

戦争、全体主義、パンデミック、政治的弾圧などの危機的状況に遭遇すれば、世界が崩壊した時に善良な人々にとって何ができるのかを考えさせられる。寛容さを失い、真実がなくなり、明るく、楽しい会話などが遠い理想となる時に、多くの人が声を出すことが出来ない状況下で、なぜ特定の人々は声をあげる勇気を持つことができるのか、「良心が呼びかける時-When Conscience Calls」は、普通の人々が並外れた行動を起こす状況を力強く書き上げている。大統領や人種差別的な暴徒と対峙するにせよ、単に弱い人々の世話をし保護するにせよ、行動に結び付ける精神的な勇気は、選択からではなく、自分のアイデンティティから生じると考えている。

クリステン・レンウイック・モンローは、勇気が湧き出る根源は、私たちが誰であるか、私たちの核となる価値観、そして「世界を変えねばならない」との信念であると結論付けている。良心が呼びかけ-

Conscience Calls-は、一部の市民が怒り、怨み、恐怖の煽りを受け入れる一方で、他の市民が共通の基盤を求め、教義と戦い、憎しみに立ち向かう理由を深く分析している。

### TABLE OF CONTENTS

Preface: One Very Small Candle

Introduction: What Is Moral Courage?

#### Part I Moral Courage as a Concept

1 Moral Courage: What We Know and What We Need to Know

2 Stories of Moral Courage: Data and Research Methodology

#### Part II Understanding Moral Courage

3 “We’re Going to Do What’s Right. We May Pay a Price for It, but That’s Fine”: Steve Zimmer on Protecting Undocumented Students

4 “No One, Not Even the President, Is Above the Law”: Erwin Chemerinsky on Suing President Trump

5 “If We Organize, We Can Change the World”: Heather Booth on Social Activism

6. “I Am Going to Do This. I Am Going to Do This to the End”: Kay Monroe on Caring for the Elderly

7 “The Courage You Have . . . It’s Not Something You Consciously Think About”: Amal on Anti-Muslim Bullying

8 “It Would Be a Violation of the Public Trust to Not Do All I Could to Stop the Wrongdoing”: Loretta Lynch on Speaking Truth to Power during the Enron Crisis

9 “Nothing Else . . . Would Enable Me to Look in the Mirror the Next Day”: Vikram Tej on Fighting Caste in India

#### Part III A Richly Faceted Moral Courage

10 When Nobody’s Watching

Conclusion: Learning from the Lives of Others

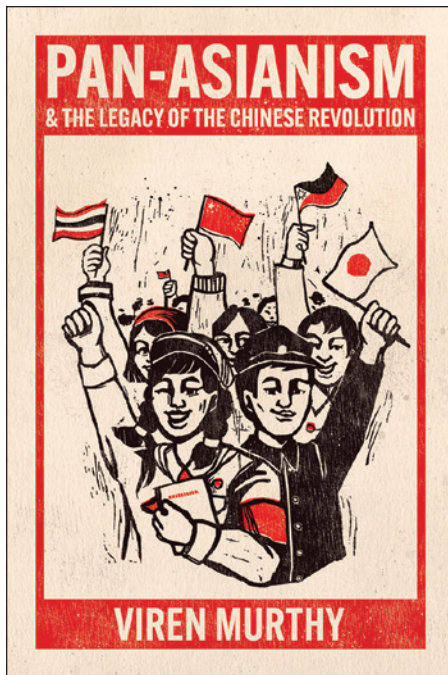
Acknowledgments

Notes

Bibliography

Index

哲学



ヴィレン・マーシーはウィスコンシン大学マディソン校の歴史の准教授です。彼は『The Political Philosophy of Zhang Taiyan: The Resistance of Consciousness』と『The Politics of Time in China and Japan: Back to the Future』の著者でもあります。

ヴィレン・マーシー

# 汎アジア主義 中国革命の遺産

2023年10月 | 288 p. | 6 x 9 | Paper \$30.00

古代シルクロードを現代に復活させるという最近の動きと西洋が中国の成長と発展に対して継続的に関心を示していることにより、汎アジア主義の概念への注目が高まっている。しかし、これについてのほとんどの言論における、影響力ある20世紀の汎アジア主義者の考えには歴史的根拠が欠如している。この本では、ヴィアン・マーシーは、左翼、保守、右翼の思想家にまたがり、独自の歴史的及び政治的文脈でアジアについて新しい考え方を提案した理論家、知識人、活動家の著作に知性的な歴史があることを述べている。20世紀にわたる汎アジア主義の言説をたどると、マーシーは、汎アジア主義に関する現代の言説が示唆するよりも抵抗と代替のビジョンを示す強い伝統があることを明らかにしている。汎アジア主義的思考の中心には、アジア諸国の統一と弱い国々が強くなり、アジア諸国以外の国々をアジアのグローバルコミュニティに入れ込むという考えで、第三世界が、「先進国」と対等に対峙するという概念であることを示している。しかし、汎アジア主義者は帝国主義と資本主義の両方を超えた未来を想像するという大きな目的を持っていた。マーシーは、資本主義の支配と共に汎アジア主義の言説の復活が出現したという事実は、そのルーツ、歴史と可能性について深刻な誤解があることを警鐘している。

## TABLE OF CONTENTS

Introduction: Pan-Asianism in the Short Twentieth Century

Chapter One: Asia as Pharmakon: The Early Constitution of Asia as Resistance

Chapter Two: The Critique of Linear Time: Pan-Asianism in Early Twentieth-Century China

Chapter Three: Asia as Anticapitalist Utopia: Ōkawa Shūmei's Critique of Political Modernity

Chapter Four: Takeuchi Yoshimi, Part I: Rethinking China as Political Subjectivity

Chapter Five: Takeuchi Yoshimi, Part II: Pan-Asianism, Revolutionary Nationalism, and War Memory

Chapter Six: Wang Hui: Contemporary Pan-Asianist in China?

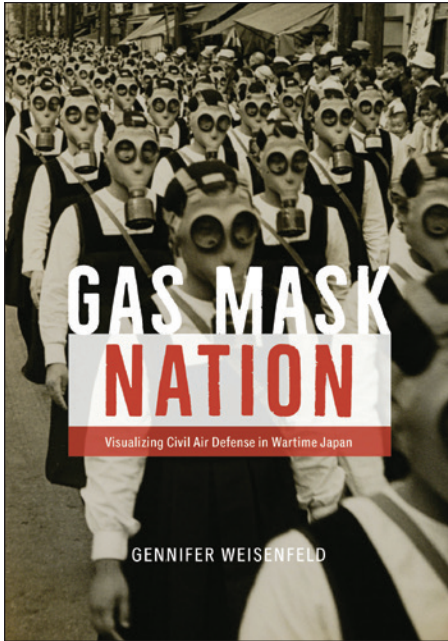
Epilogue: Pan-Asianism, the Chinese Revolution, and Global Moments

Acknowledgments

Notes

Bibliography

Index



## ガスマスク・ネーション-防毒マスクをつけた人々、視覚化した日本の戦時下での民間の防空手段

2023年3月 | 416 p. | 83 color plates, 102 halftones | 7 x 10 | Cloth \$60.00

第二次世界大戦中の日本の視覚文化として表れている不安の中の楽しみについての興味深い考察

戦時中の日本で一般的に印象的であったものは、爆撃機、防毒マスク、爆弾であった。しかし、これらの象徴的な不安な状況の中で、紙製の防毒マスクをつけた子供たちにおいしいキャラメルが販促用の景品として配られ、雑誌には魅力的な最新の民間用の防衛ファッションから未来の武器までをすべてが特集された。

『ガスマスク・ネーション』では、多様な芸術作品、写真、映画、ニュース映画、雑誌のイラスト、葉書、漫画、広告、ファッション、日用品、政府のポスター、国家プロパガンダなどを通じて、不安でありながら一風変わった日本の民間防空手段に関する視覚的文化の多層的構造を探求する。

ジェニファー・ワイゼンフェルドは、日本帝国の人民が全国で高度に組織された民間防空訓練を定期的実施するために動員されたことなど、この文化の臨場感あふれる側面を明らかにしている。

日本の戦時中の情景が、戦争用の武器が検閲の下、窮乏と抑圧で描かれることが多かった。しかし、空襲が恐ろしくて不安なものであることから致命的な現実へと変わる前までは、恐怖とならんで、楽しみ、望み、好奇心、創造感、そしてユーモアが依然として豊富に存在していた。

### TABLE OF CONTENTS

Introduction

1. Selling and Consuming Total War
2. Aviation and Japan's Aerial Imaginary
3. Gas Mask Parade
4. Bombs Away!
5. Wondrous Weapons and Future War
6. Exhibiting Air Defense

Epilogue: Afterimages

Acknowledgments

Notes

Bibliography

Index

Praise for *Imaging Disaster*

“Outstanding.”—*Design History*

“A wonderful and compelling book.”

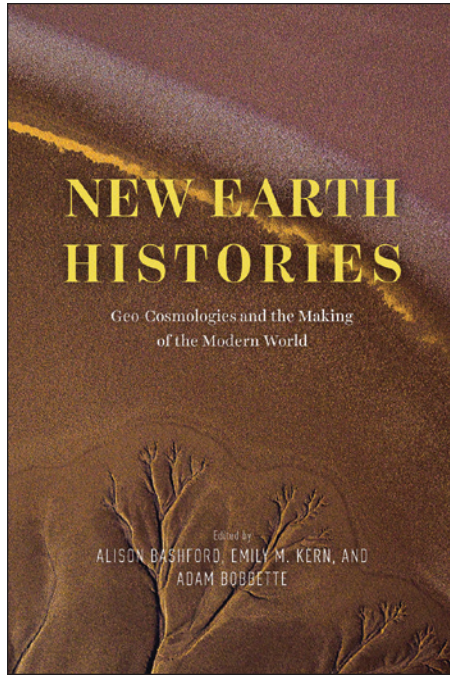
—*New Books in East Asian Studies*

ジェニファー・ワイゼンフェルドはデューク大学の芸術、美術史、ビジュアルスタディ部門の教授です。

『Mavo: Japanese Artists and the Avant-Garde, 1905-1931』と

『Imaging Disaster: Tokyo and the Visual Culture of Japan's Great Earthquake of 1923』の著者でもあります。





アリソン・バッシュフォードはオーストラリア、ニューサウスウェールズ大学の歴史科学の教授であり、New Earth Histories Research Program（新しい地球史研究プログラム）の共同ディレクターです。エミリー・M・カーンはシカゴ大学で科学史の助教授です。アダム・ボベットはグラスゴー大学で地理学と地球科学の講師です。

## CONTRIBUTORS

Alison Bashford, Adam Bobbette, Melissa Charenko, Nigel Clark, Kathryn Dyt, Ruth Gamble, Dan Hikuroa, Jarrod Hore, Emily M. Kern, Ruth A. Morgan, Zeynep Oguz, Sumathi Ramaswamy, Alexis Rider, Natalie Robertson, Claire Conklin Sabel, Anne Salmond, Perrin Selcer, Raphael Uchôa

アリソン・バッシュフォード エミリー・M・カーン アダム・ボベット

# 新しい地球の歴史

## 地球宇宙論と近代世界の形成

*With a Foreword by Dipesh Chakrabarty*

2023年11月 | 392 p. | 44 halftones, 1 tables | 6 x 9 | Paper \$37.50

私たちがどのように地球を知るようになったについ万華鏡のように再考してみる。

この本は、地球科学と世界宇宙論の歴史をまとめ、地球の起源と構成について中国、太平洋、イスラム、南アジア、東南アジアの概念を含む多くの伝統を探求している。その章では、神聖で、活気があり、地上で変化する現代の環境科学がどのように異なった考えを示すのか？様々な世界の伝統が人類と地質学的起源をどのように理解してきたのか？複数の宇宙論を取り入れることで、人新世紀と地球規模の気候危機の意味はどのように変わるのか？これらの質問を注意深く調べることにより、「新しい地球の歴史」は、私たちが地球についてどのように考えるかという大きな課題を提起する。

この章では、地球の年齢と構造、人類と地球のシステムがどのように相互作用するのか、そして帝国が複数の伝統をどのように考えてきたのかについて議論することを検討します。著者らが展開する方法は、文化史や視覚的、物質的研究から民族誌学、地理学、先住民研究まで多様である。その効果は、歴史的に特定の状況から地球についての知識がどのように出現したのかについて強調することである。「新しい地球の歴史」は、世界規模で科学を研究するためのフレームワークと、将来の仕事を教育、刺激するために魅力的な例を提供する。

## TABLE OF CONTENTS

- List of Illustrations
- List of Contributors
- Foreword
- Introduction: New Earth Histories
- Part I New Earthly Cosmologies
- Part II New Geo-Theologies
- Part III New Elemental Histories
- Part IV New Geo-Temporalities
- Afterword
- Alison Bashford, Emily M. Kern, and Adam Bobbette
- Notes
- Index

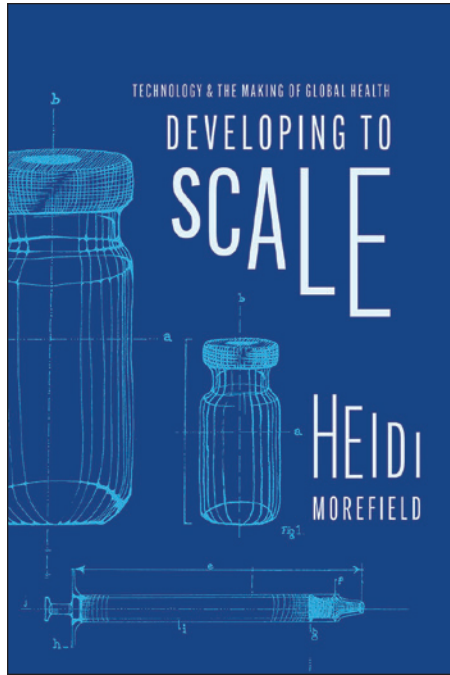
科学

ハイディ・モアフィールド

# 規模に応じた開発

## テクノロジーとグローバルヘルスの形成

2023年10月 | 232 p. | 6 x 9 | Paper \$30.00



ハイディ・モアフィールドは医療と国際保健に関する歴史学者です。現在、彼女は国際的に活動しているコンサルティング会社に勤めています。

「適切な技術」に関する最初の重要な本である“規模に応じた開発-Developing to Scale”ではグローバルヘルスが適切な技術を介して解決されるべき問題としてどのように理解されるようになったかを述べている。

1973年に経済学者のE.F.シューマツハは、“Small is Beautiful”を出版し、主流の聴衆に彼の「適切な技術」の理論を紹介した。それは、グローバルサウスの国際開発プロジェクトで、小規模に分散され、伝統と現代の間でバランスが取れている時に最も持続可能であったという信念に基づく。彼の理論で、対外援助予算の削減、より大きな独立を求める国々の国益、脱植民地化への活動及び米国の技術セクターの台頭により、公的及び民間機関全体の利害関係者が安価なツールに向かったことを広くアピールしている。その後の10年で、米国の対外援助は、水処理施設などの大規模な近代化プロジェクトから村の水ポンプや経口補水塩などの個々に使用される技術に移行した。この小規模案件への移行はグローバルヘルスの維持に大きな影響を与えた。

「規模に応じた開発」では、最終的な考え方を形作った人々、組織、イベントと関連付けて、国際的な健康と拡大に役立った適切なテクノロジーの歴史を語っている。ハイディ・モアフィールドは、性別、人種、文化、環境に関する想定に基づいて、特定のテクノロジーがグローバルサウスで、多かれ少なかれ「適切」であることをどのように定義されているかを調べる。彼女の研究では、それぞれ異なった関係者が独自のニーズに応じてアイデアを解釈したことで、適切なテクノロジーが順応的であることを示した。彼女は、政策立案者がこのツールをどのように使って、援助を西側の利益を脅かさない規模に制限し、技術的介入の展開と配置を通じてグローバルヘルスの維持を拡大したかを明らかにする。

### TABLE OF CONTENTS

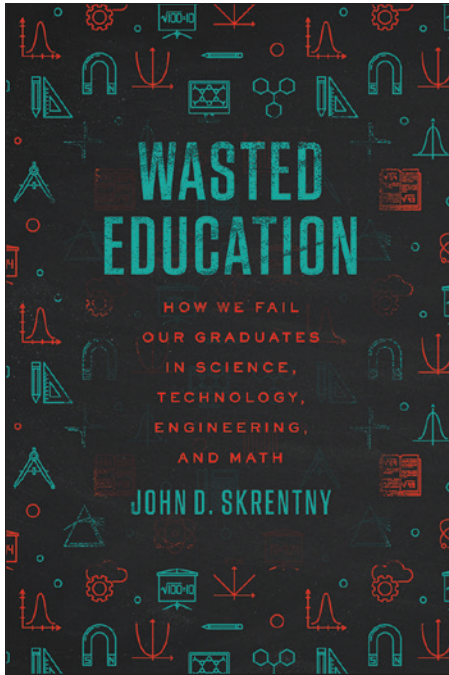
Introduction	Epilogue COVID-19
Chapter One Buddhist Economics	Acknowledgments
Chapter Two Small Is Beautiful	Notes
Chapter Three Networking Development	Index
Chapter Four Carrots and Sticks	
Chapter Five Visions of the Future	
Chapter Six The Silver Bullet Boys	
Chapter Seven Bantu Technology	
Chapter Eight Scaling Up	

ジョン・D・スクレントニー

# 無駄な教育

科学、技術、工学、数学分野の  
卒業生をどのように落第させる  
か

2023年11月 | 256 p. | 7 halftones | 6 x 9 | Cloth \$30.00



ジョン・D・スクレントニーはカリフォルニア大学サンディエゴ校の社会学の教授です。

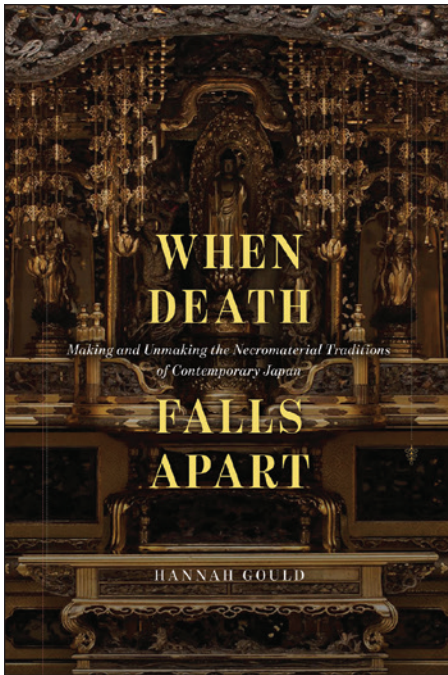
アメリカで定着しつつあるSTEM教育の現実を緊急に調査せねばなりません。私たちはSTEMに取りつかれる時代に生きている。テクノロジー企業はSTEMの不足を訴えながらアメリカの企業と経済成長を支配しているだけでなく、差し迫った危機を科学的に解決せねばならない。社会として、私たちは数十億ドルを含む莫大な資金を、若い精神を育成することを目的に高給を得ているSTEMの人材に対して注ぎ込んできたにも関わらず、労働者の流出に直面しており、STEM卒業生の70%がSTEMの仕事を選ばなくなっている。社会学者のジョン・D・スクレントニー氏は、その理由を調査した結果は単純なものであったと述べている。それはSTEMの職に問題があったことである。

「無駄な教育 - Wasted Education」では、「燃え尽き、掻きまわす」式のマネージメント、雇用保障の欠如、時には、社会的に害を及ぼすが、終わりのない新しい技術に対応するためのトレーニングの欠如、更には、女性、有色人種、高齢労働者の排除などの結果として、STEMの仕事から優秀なSTEMの卒業生が離れていったことを明らかにしています。「無駄な教育 - Wasted Education」では、STEM教育に対する投資回収を改善しようとするならば、私たちの未来が依存する働き手に対する扱い方を変えねばならないと述べている。

## TABLE OF CONTENTS

- 1 Introduction: The Great Investment in STEM Education
- 2 The Exodus from STEM Jobs
- 3 Burn and Churn: How Management Strategies Can Drive Away STEM Workers 4  
The Precariousness of the STEM Job
- 5 Training and the STEM-Skills Treadmill
- 6 How STEM Employers Contribute to Their Own Diversity Problems
- 7 STEM Education for What? Investors, Employers, and the Purpose of STEM  
Work
- Acknowledgments
- Notes
- Index





# 死がバラバラになる時

現代日本の死にまつわる物の  
伝統を作るか、作らないか

2023年12月 | 208 p. | 6 x 9 | Paper \$30.00

ハンナ・グールドはメルボルン大学、社会政治学部の博士研究員であり、デステック（葬テック）研究チームのメンバーです。彼女はオーストラリアの死亡研究協会の会長であり、『Aromas of Asia』の共同編集者です。

本書は、日本の仏教資材産業における民族誌的研究を通じて、死体の動的な生命源に着目して死の儀式の変化を理解する方法を確立した。

福山の山腹の奥深くにある「お墓の墓」には、何エーカーもの不要な墓石が、日本で廃棄された死の儀式の残骸として置かれている。過去には、日本では死者は、墓や仏壇又は家の中に仏壇の代りになるものにお供えをして儀式を続けることにより、崇拝される祖先になった。しかし、21世紀においては、世代間で受け継がれてきたやり方は急速に崩れてしまった。騒々しい大工仕事の葬儀場、派手な葬儀用品のショールーム、放置された墓地、女性が葬儀の際に出す料理の準備をする狭い台所で、ハンナ・グールドは仏壇のライフサイクルを分析し、それがどのように作られ、宗教と葬儀の経済を循環し生者と死者の間で密接な交流をどのように取り成しているのかを明らかにしている。人口が高齢化するにつれて家族は分散し、大きな漆塗りの仏壇は置くスペースがなくなり、最終的には使わなくなる。

彼女は葬儀の技術が時代遅れになるとどうなるのかと尋ねると、何がその代わりになるのかと？グールドは、スカンジナビアのデザインに触発されたミニチュアの壺や洗練された祭壇、更には宝石の聖遺物箱など、都会のアパートにより適した新製品が代わりになるのではないかと考えている。彼女は自動化された納骨堂を訪れ、無常を受け入れる新しい儀式を行ってはどうか考えている。彼女は、業界の展示会のデモンストレーションで死体の役割を引き受ける。グールドは、私たちに追悼を再考することを促し、死者を育み、生者の世界から彼らを解きほぐそうとする物質的な交流に基づく日本の屍社会性の独特な形を説明している。

## TABLE OF CONTENTS

Textual Conventions

Introduction: The Stuff of Death and the Death of Stuff

1. Crafting

2. Retail

3. Practice

4. Disposal

5. Remaking

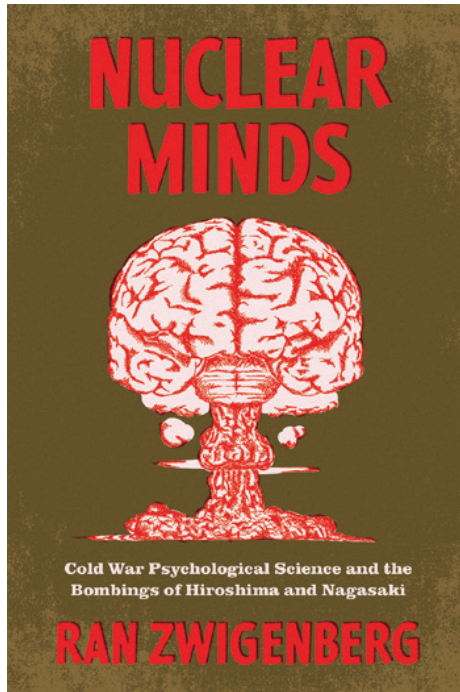
Conclusion: When Death Falls Apart

Acknowledgments

Notes

Works Cited

Index



ラン・ツヴィゲンバーグはペンシルバニア州立大学のアジア研究、歴史、ユダヤ研究の准教授です。彼は『Hiroshima: The Origins of Global Memory Culture』(広島：世界の記憶文化の起源)の著者でもあります。

# 核に関する考え

## 冷戦心理学と広島、長崎原爆投下

2023年7月 | 304 p. | 10 halftones | 6 x 9 | Paper \$35.00

研究者が、心的外傷後ストレス障害（PTSD）という概念を認識する前に、原子爆弾が人間の精神に与える影響をどのように理解していたか。

1945年米国戦略爆撃調査団とともに広島への任務に就いた研究者は核攻撃の生存者を調査しました。これは、精神科医、心理学者、その他の社会科学者による、核時代の到来によって人間の心が影響を受けた複雑な原因に取り組むための世界的な努力の始まりであった。環太平洋研究ネットワークが生まれ、爆弾の投下とその後の環太平洋と周辺の核実験に関する膨大なデータがまとめられた。

ラン・ツヴィゲンバーグは、この調査の中で、研究者と被害者のコミュニケーションで異なった解釈がなされた部分を追跡した。彼は、心的外傷後ストレス障害の概念を得る前に、被爆者に対する爆弾の心理的影響がどのように理解されていたかを探る。実際、広島と長崎に関する心理的、精神医学面の研究では、トラウマや同様の精神的障害についてあまり言及しなかった。代わりに、制度的、政治的制約、特に、心理学と冷戦科学とを絡ませて、研究者は短期的損傷と体性的反応、時には、犠牲者の苦しみを否定することに集中するようになりました。その結果、苦しみを改善しようとした医師はほとんどいなかった。

しかし、ツヴィゲンバーグは医師が正しい診断を下すことに失敗しただけではないと主張している。犠牲者が経験したことが、必ずしも、当時、期待していたことと一致していないこともあった。彼は、トラウマの種類は、非西洋の文脈で問題なく使用すべきではないと述べている。従って、本書は、第一に、研究者と被害者が行動していた歴史的、文化的、科学的制約を理解すること、第二に、PTSDが分析のカテゴリーになる前に、色々な文化的な文脈で苦しみがどのように理解されたかを探る。

### TABLE OF CONTENTS

Note on Language

Introduction

#### Part 1. Bombing Minds

Chapter 1. American Psychological Sciences and the Road to Hiroshima and Nagasaki

Chapter 2. Bombing “the Japanese Mind”: Alexander Leighton’s Hiroshima

Chapter 3. Healing a Sick World: The

Nuclear Age on the Analyst’s Couch

Chapter 4. Nuclear Trauma and Panic in the United States

#### Part 2. Researching Minds, Healing Minds

Chapter 5. Y. Scott Matsumoto, the ABCC, and A-Bomb Social Work

Chapter 6. Konuma Masuho and the Psychiatry of the Bomb

Chapter 7. Kubo Yoshitoshi and the Psychology of Peace

Chapter 8. Social Workers, Nuclear Sociology, and the Road to PTSD

Conclusion

Acknowledgments

Notes

Index

社会科学



# Liberalism's Last Man

Hayek in the Age  
of Political Capitalism

Vikash Yadav



ヴィカシュ・ヤダフはホバート・アンド・ウィリアム・スミス大学の国際関係とアジア研究の准教授です。

ヴィカシュ・ヤダフ

# 最後の自由主義者

政治資本主義時代における  
ハイエク

2023年8月 | 288 p. | 2 line drawings | 6 x 9 | Cloth \$35.00

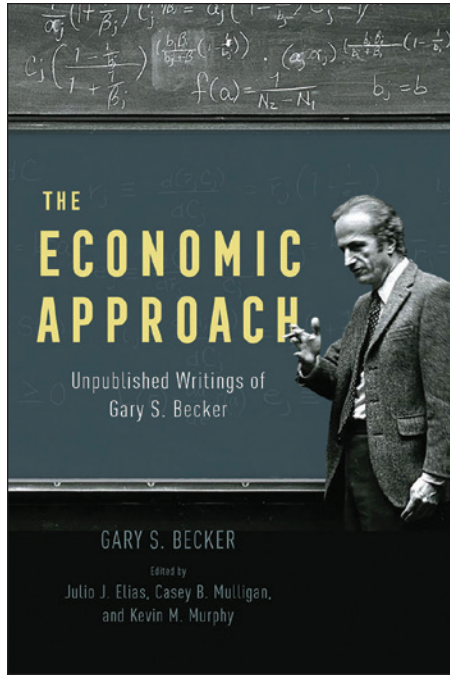
フリードリヒ・ハイエクの21世紀で最も有名な作品を現代的にリフレームした作品である。

フリードリヒ・ハイエクの「農奴制への道」は、知的な道徳性を描写しているが、政治的分裂を起こす原因にもなり、資本主義とそれに対する不満をめぐる激しい議論に拍車を掛けた。その後の葛藤で、ハイエクの真のメッセージは失われた。自由主義は守られるべきものであり、その代わりになるものは危険である。

「最後の自由主義者 - Liberalism's Last Man」では、ヴィカシュ・ヤダフは、ハイエクの有名な作品の核心を復活させ、今日の主なる政治的不安、特に、中国、ベトナム、シンガポールなどで政治的資本主義者が強くなっている状況下で、北米、欧州、アジアでリベラルな成果主義的資本主義が希薄になっている状況を説明している。開かれた社会で、権威主義的資本主義経済が必要とする生産性の確保に苦勞するにつれて、成果主義の約束事が薄れていく。ヤダフは自由主義の道徳的バックボーンが抑圧的な社会構造に対する最大の防御であることを明確にすることによりハイエクと結びつけている。

## TABLE OF CONTENTS

Preface	Chapter 10 Why the Worst Get on Top
Introduction	Chapter 11 The End of Truth
Chapter 1 The Abandoned Road	Chapter 12 The Socialist Roots of Nazism
Chapter 2 The Great Utopia	Chapter 13 The Totalitarians in Our Midst
Chapter 3 Individualism and Collectivism	Chapter 14 Material Conditions and Ideal Ends
Chapter 4 The "Inevitability" of Planning	Chapter 15 The Prospects of International Order
Chapter 5 Planning and Democracy	Conclusion
Chapter 6 Planning and the Rule of Law	Acknowledgments
Chapter 7 Economic Control and Totalitarianism	Notes
Chapter 8 Who, Whom?	Bibliography
Chapter 9 Security and Freedom	



**“What a tremendous book! Becker was a giant, with an extraordinary combination of intense focus and curiosity, and you can see his genius here. Be prepared to be surprised and illuminated—and to have some fun in the process.”**

—Cass R. Sunstein, author of *Too Much Information*

フリオ・J・エリアスはアルゼンチンのCEMA大学の経済学教授、経済学修士プログラムのディレクターであり、ラテンアメリカ実験経済学共同イニシアティブのエクゼクティブ・ディレクターです。ケイシー・B・マリガンはシカゴ大学のケネス・C・グリフィン経済学部の教授であり、ヘルスケアの選択と競争を可能にするイニシアティブのプログラムディレクターです。ケビン・M・マーフィーはシカゴ大学の経済学部および経営大学院、ブース・スクール・オブ・ビジネスのジョージ・J・スティグラー経済学の特別功労教授です。

ゲイリー・S・ベッカー

# エコノミック・アプローチ

ゲイリー・S・ベッカーの未発表著作

フリオ・J・エリアス、ケイシー・B・マリガン、ケビン・M・マーフィー編集、エドワード・L・グレイザーによる序文

2023年8月 | 184 p. | 8 line drawings | 6 x 9 | Cloth \$45.00

近代世界を形作った知的英雄の明らかにされてコレクション

経済学者及び知識人として、ゲイリー・S・ベッカーは巨人でした。ノーベル賞の受賞者、ジョン・ベイツ・クラーク・メダルと大統領自由勲章の受章者であるベッカーは歴史上、最も偉大なミクロ経済学者と広く知られている。

シカゴ大学で40年間過ごした後に、ベッカーは、選好形成、合理的な教化、所得の不平等、薬物と中毒、家庭の経済学などを分析し、人間の行動に経済的にアプローチをした多数の未発表著作を残した。

これらの論文では、彼が従事した世界の内外で愛される人物になったプロセスと性格（直接的、批判的、好奇心）を明らかにしている。エコノミック・アプローチは、これらの現存する作品をベッカー作品の頂点として検証する。これは作品が完全なものだからではなく、出版物に動機付けられていない経済学者の馴れ合いに対して、少しの教訓を示している。ここで、彼の作品を通して、探求心が顕著に残っており、永遠に共鳴している。

## TABLE OF CONTENTS

Foreword by Edward Glaeser

1. Just the Beginning
2. Accounting for Tastes
3. Household Production and Human Capital
4. Income Inequality and the Public Sector
5. Family Economic

Chronological Academic Life of Gary S. Becker

Selected Writings about Gary S. Becker

Bibliography of Gary S. Becker

Dissertations Chaired by Gary S. Becker at Columbia University and the University of Chicago

Acknowledgments

Notes

Index

ビジネス・経済学